

現場を無人化する自動配送ロボット



- 超高齢社会における省人化したラストマイル物流網の構築
- IoTロッカーと連動し、現場に人がいなくても荷物を自動積載
- 国産ロボットの近距離モビリティサービスとして海外展開

目指す将来像

高齢化社会で労働人口が減少する中、まずは自動配送ロボットによるラストマイル物流の自動化を達成します。その後、人の移動の自動化にも展開していき、高齢化社会での地域の近距離移動インフラになることを目指します。また、高齢化で課題先進国である日本において近距離自律モビリティをインフラ化し、今後、高齢化していく諸外国に実績のあるインフラサービスとして展開することを目指します。



これにより、高齢者や移動困難者の生活の質を向上させ、持続可能な社会の実現に貢献します。さらに、環境負荷の低減や、都市部だけでなく地方での利便性向上も視野に入れ、未来のスマートシティ構築の一翼を担います。

技術の特徴

信号機の自動認識やIoTロッカーシステムとの連携など、自社開発のAI技術を駆使し、省人化技術の開発に注力しています。

これにより、労働人口が減少する中でも、ロボットのみでの24時間運行が可能になります。将来的には、IoTロッカーをコンビニ店舗などにマイクロ物流倉庫として設置し、独自のラストマイル物流網を構築することを目指します。

